

会 議 録

| | |
|---------|--|
| 会議名 | 山形市総合教育会議 |
| 開催日時 | 平成29年7月26日(水) 10:00～11:30 |
| 開催場所 | 山形市役所3階 庁議室 |
| 出席者 | 佐藤孝弘市長、荒澤賢雄教育長、須賀まり子委員、無着道子委員、白鳥樹一郎委員、中村篤委員 |
| (陪席) | 岩田雅史総務部長、庄司新一企画調整部長、小野徹子育て推進部長 |
| (事務局) | 阿部謙一教育部長、高橋勇管理課長、鈴木一尋学校教育課長、國井康彦社会教育青少年課長、石川一幸スポーツ保健課長 |
| 報告・協議事項 | <p>報告事項</p> <p>(1) 「山形市教育振興基本計画」の策定について</p> <p>(2) 山形市の児童・生徒の現況について</p> <p>協議事項</p> <p>(1) 新しい学習指導要領への対応について ～外国語活動および外国語を中心に～</p> |

会議経過

1. 開会 高橋管理課長

2. 挨拶 佐藤市長、荒澤教育長

3. 報告 (座長 佐藤市長)

(1) 「山形市教育基本計画」の見直しについて

資料1を用い、阿部教育部長より説明。

<質疑応答>…無し

(2) 山形市の児童・生徒の現況について

資料2を用い、鈴木学校教育課長より説明。

<質疑応答>

【須賀委員】

準要保護認定に90件の保留者がいるが、保留の理由は何か。

【鈴木学校教育課長】

申請書類の不備により決定を保留している。

4. 協議（座長 佐藤市長）

- (1) 新しい学習指導要領への対応について ～外国語活動および外国語を中心に～
阿部教育部長より概要説明の後、学校教育課沼澤指導主事・田中指導主事より資料3及びパワーポイントを用い詳細説明・提案。

<意見交換>

【佐藤市長】

この会議における協議は、何かを決定するというのではなく、自由な意見交換の意味合いであるため、それぞれ意見を伺いたい。

まず私から只今の説明・提案について、意見を述べさせていただきます。

私も英語を学校教育で学んできたが、従来のいわゆる受験英語では、実際の会話やコミュニケーションが出来ないということが、指導要領改訂による小学校からの外国語教育充実の理由ではないかと思う。

異文化理解、国際的交流やグローバル化への対応など、学校教育で英語を学ぶ意義をしっかりと理解して学習することに意味があると思う。

社会に出て仕事で英語を使う場合は、留学など専門的なビジネス英語の教育を受けないと難しいが、海外旅行で使うレベルであれば比較的易しいものであるし、ここで目指すのは仕事レベルの英会話では無いと思う。

大事なのは、外国人と接する際に物怖じせず対応できるようになることである。

近年、様々な観光地に外国人が増えてきている。お土産店などで日本語が分からない外国人に対し、店員がジェスチャーと簡単な英単語でコミュニケーションをとっているのを見ると、恥ずかしがらずに積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢こそが重要であると実感する。

教える側の教員が英語教育に不安を感じているということだが、こういった積極的な姿勢や「心構え」を早いうちから身に付けさせることが重要であり、それがこのたびの英語教育充実の趣旨であり、核であると教員に理解してもらえば、不安も少しは解消するのではないだろうか。

【荒澤教育長】

今回の学習指導要領改訂は、道徳の教科化による評価、プログラミング学習、アクティブラーニングの導入など、私が経験した中で最も大きな変革内容であり、校長以下、全教職員が不安を感じている。その中でもやはり小学校の英語教育に関することが一番の不安である。

実際、5・6年生の担任になることを嫌がる教員もいるが、教員採用時に英語が無かったベテランの教員は不安な気持ちになるのは当たり前であり、教員にとっては正直な、素直な反応なのではないかと感じる。

今回の提案内容にあった教員研修の中で、市長が話した英語教育の“核”をし

っかり伝え、理解してもらわなければならない。

また、ALTの活用であるが、私も当初は全小学校にALTを配置し、ALTによる授業回数を増やすことが理想であると考えていた。しかし、先行実施や研究校の事例を見ると、担任が授業をALT任せにしてしまうという課題が散見されるようである。それくらい英語教育に不安を持っているということであろうが、担任の授業に対する主体性が無くなり、取り組む姿勢に問題が生じる。

その意味で、インプットを担任が行い、アウトプットをALTが行うという案は有効であると感じた。担任が自信を持ってインプットの授業が出来るよう支援していきたいと思う。

【須賀委員】

教員経験から言えば、外国語学習については、学びの入口でワクワクドキドキするような楽しさを感じられるかが大事であり、小学生の時点で英語嫌いになる児童を出さないようにするべきである。

また、教員が英語教育に不安をもってしまうと、授業を受ける子どもに楽しさを教えられるか疑問である。英語教育に不安を持ったままでは、その教員から授業を受ける子どもにとってもマイナスになってしまうのではないか。教員にそんな状態で英語の授業をさせてはいけなく感じる。

初めて英語授業がある学年の担任を受け持つ場合、1コマ毎の授業や1年間の授業の流れが分からないため、授業の準備に労力と時間を多く取られてしまう。可能であれば、専科教員など英語授業の経験が豊富な教員とペアを組む環境を用意するなど、小学校教員の負担増にならないようにしてほしい。

【無着委員】

提案を聞き、小学校教員の不安・負担感がとても大きいという印象を持ったと同時に教員への支援が重要であると感じた。

教員自身が楽しんで授業をやれるようになることが願いである。

教員にとってもせつかくのチャンスなので、前向きに取り組んでもらい、外国語を通じて子どもと向き合ってもらいたい。

山形市教育大綱に“信頼”という言葉が出てくるが、教員が外国語に前向きに取り組めば、子ども・家庭との信頼が生まれ、魅力ある学校づくりにつながり、外国語を通して地域で活躍する人財づくりにもつながると思う。

まさに教育大綱の具現化となるのではないだろうか。

また、中学校英語教員の活用や連携も重要であると感じたところである。

【白鳥委員】

小学校教員としての経験から言えば、小学校教員は子どもの扱いに慣れているので、研修をしっかりとすれば上手く教えられると思われる。

しかし発音を教えるのが厳しいのではないか。私も無理だと感じる。これまで

の受検英語はスペルを覚えるのが主で、発音は軽視してきた感がある。

発音はやはりネイティブと触れることが大事であり、コミュニケーションを通して物怖じしなくなるはずである。そのためにもALTの配置は重要である。

山形市教育大綱にある“グローバルな人財育成”のためには、小学校の段階でALTのようなネイティブと触れ合うことが必要ではないか。

【中村委員】

個人的には、受験や就職試験で必須とされているのにも関わらず、何故昔から小学校課程に英語教育が無いのか疑問に思っていた。

また、最近のスポーツ選手や将棋の棋士の活躍を見ていると、幼少期からその分野に触れることが大事であると感じている。

その点でも、今回の指導要領改訂により早期から外国語教育が実施されるようになったのは大事であるし、理解できる。山形市としてもしっかりサポート出来るようにしていただきたい。

将来、大学入試センター試験に英検やTOEICが加味されるようであるが、学校教育の中でも積極的に民間の資格を受講させることが必要になるのではないだろうか。

【佐藤市長】

皆さんの感想・意見を一通り伺ったが、共通するのは英語の授業を行う教員の不安や負担を危惧していることであると感じた。

教員への支援は重要視するが、そのための資源は限られているので、その中で出来得る限り、親身になって支援していきたいと考えている。

【須賀委員】

不安が多いというが、現場の教員の実際の声は市教委で把握しているのか。

【鈴木学校教育課長】

アンケート等は実施していないが、計画訪問で学校に行くと、実際に英語の授業をしているのは若い世代の教員が圧倒的に多い。

ベテランの教員はやはり不安なのではないかと思う。

【荒澤教育長】

関連して、以前は20歳代の教員の割合は少なかったが、今は増えている。

ベテランと比較して、若い世代は教員採用の際に英語教育能力を求められており、苦手意識は少なく、今後も割合は増えていくため、これから10～20年のうちに外国語に対する教員の捉え方も変わっていくであろうと期待している。

【佐藤市長】

先程発音の話題になったが、ネイティブな発音に近づけることに拘るよりも、むしろ細かい発音は気にせず堂々と話すことが大事である。

教員研修の内容はまだ固まっていないと思うが、発音指導に対する不安感を研

修で取り除くことが出来るようにすれば良いのではないかと思う。

外国人対応のスタンスにしても、相手も同じ人間であり、使う言語が異なっているだけである。外国語を学ぶことにより、ひとつのツールとして活用できれば異文化交流が可能になり、その人の世界が広がっていく。

教える側が不安であれば教わる子どもも楽しくないという話があったが、その通りだと思う。教員にあまりプレッシャーをかけず、楽しさを忘れずに授業に取り組んでほしい。

【須賀委員】

数日間英語漬けになる、教員対象のイングリッシュキャンプも実施されている。そのようなものに参加して、教員自身へも大きな変化を与えるべきではないか。

【荒澤教育長】

教員の意識改革も重要である。教員研修の内容を工夫・精査していきたい。

【佐藤市長】

今の会議で、外国語教育の課題や問題意識が共有できたと感じている。

子どもに外国語の楽しさを理解してもらえるよう、教える側の教員への支援が重要であり、有効な施策を検討していきたい。

5. その他

<高橋管理課長>

今後の総合教育会議の持ち方については、下半期に今年度第2回目の会議を開催し、具体的な開催時期・テーマについては出席者と調整する。

6. 閉会 高橋管理課長